

“聴く・伝える・わかる”が支える働きやすさ

実施内容	
①	傾聴スキルセミナーの導入 ・オンライン形式で受講し、従業員が受講。 ・受講時のルールは「相手の話を聴く」「否定しない」 ・受講後は現場での実践を促進（後（先）輩や技能実習生の声に耳を傾ける）
②	動画マニュアルの活用 ・作業手順を動画にすることで視覚的に作業内容を確認できる ・翻訳機能付きにより、技能実習生も母国語で内容を理解可能 ・作業前に一連の流れを確認することで、ミスや不安を軽減
③	設備への多言語表示 ・非常停止ボタンなど設備に、日本語＋外国語を表記 ・技能実習生が緊急時に迷わず対応できる環境を整備

効果	
①	技能実習生から「話を聴いてもらえた」「作業がわかりやすくなった」との声
②	作業ミス・伝達漏れの減少、ヒヤリハット報告の増加（安全意識の向上）
③	現場の雰囲気が柔らかくなり、心理的安全性が高まった

アピールポイント	
①	心の衛生を整える「傾聴セミナー」の導入 ・傾聴セミナーにより、職場に「聴く文化」が根付き、心理的安全性が向上 ・実習生や若手が安心して話せる環境が生まれ、ストレス軽減につながった
②	理解と安心を支える「動画マニュアル」＋翻訳対応 ・作業手順を動画で視覚的に確認でき、技能実習生も母国語で理解可能 ・「わかる」ことで不安が減り、衛生的な職場行動が定着
③	安全設備の多言語表示で緊急時も安心 ・非常停止ボタンに外国語表示を追加し、技能実習生が迷わず対応できる環境を整備 ・言語の壁を越えた安全配慮が、衛生管理の信頼性を高めた
④	傾聴を軸にした衛生活動の「循環構造」 ・「聴く→理解→安心(安全)→信頼→さらに聴く」という好循環が生まれた ・心と行動の両面から衛生環境を整える新しいアプローチ
⑤	サブスク型で受け放題、受講料がリーズナブル ・定額制なので、複数回受講しても追加費用がなく、コストパフォーマンスが高い ・社内の一室で受講可能なため、移動費などの出費がゼロ ・業務の合間や空き時間に視聴できるため、通常業務を妨げずに教育が可能 ・誰が教えても内容が変わらず、均質な教育が可能。OJTのばらつきを防止

「傾聴」を軸とした【労働衛生の循環構造】

